

問題① 2枚の写真を比べて、何か気づくことはありませんか？

問題② これは同じ場所を撮ったものですが、どこでしょうか

①の答え 写真Bは雑草がなくなって、パンジーの美しさが、一層はっきりします。

②の答え 上坂部小学校北門から入って、北校舎沿いに連なる植え込みです。

問題③ 誰がきれいにしてくれたのでしょうか。

③の答え 植え込みの殆どが校務員さんによるものです。



具体的にイメージする 感性を研ぎ澄ます

上坂部小学校の植え込みは、北校舎沿い敷地いっぱい東西におよそ100m、東校舎沿い南北40mにわたって続いています。狭い所で幅40cm広い所は2m程です。北門を通ると北校舎沿いに、南門通ると東校舎沿いに、植え込みがあります。ですから校門をくぐり校舎に至る道筋で、毎日見かける所とも言えます。

(但し前を見ていたらなら、植え込みは目に入りません。左か右に視線を向けると見えます。) 4月初めぎっしりと雑草が生えていたのが、月末には殆どないことにお気づきでしょうか。おそらく抜いた雑草の本数は、1万本以上でしょう。天候不順が続いた4月、腰をかがめながら黙々と1本1本を抜いていく…根気を要し、実に大変な作業です。校務員さんのおかげです。

①「事象に学ぶ」②「陰で自分を支えて下さる人達にも感謝を忘れない」、③「イメージを膨らませ、想いを馳せる」… 何を、どう見て、どんなふうに関わり取るか…感性を研ぎ澄ますと、目に見えることや直接関わるだけでなく、見えないものが見えてくるかも知れません。

いのちのリレー

このパンジーは、昨年度に上坂部西公園(都市緑化植物園)から種で分けていただいて育てた2代目にあたります。苗から育てるのが一般的ですが、これは前の校務員さんが種から大事に育てたものです。植え込みのパンジーはいのちのリレーであるとともに、人と人のつながりでもあります。「事象に学ぶ」と、そこには人の存在があって「人に学ぶ」ことに通じる場合もあります。

雑草と言うなかれ

雑草と称するものは、人間の勝手に名付けられたもので、人間の都合で駆除される(いのちをはく奪される)ものです。いのちの観点からは、雑草(野草)もパンジーも同列です。ただ、逐一野草に感情移入しては生活できませんから、こだわることはないのですが、人間の傲慢さは心得ておくべきとも思います。「都合のよいものを可愛がり、都合の悪いものは避けたり排除したりする」…これは本能です。どうやらヒトは本能と理性のせめぎ合いや使い分けをもって、日々生きているようです。

「雑草ということはない」(昭和天皇) = 「どんな草にも名前や役割はあり、人間の都合で邪険に扱うような呼び方をすべきではない」の意。陰で支える人に加えて、陰にある野草の存在も考えたいです。

植え込みの野草 名前の由来

カラスノエンドウ カラスノエンドウは俗名。正式にはヤハズエンドウという。近似種にスズメノエンドウ、カスマグサがある。カスマグサの「カスマ」とは、「カラス」と「スズメ」の間(マ)の意で、大きさが中間であることから名付けられました。

ハハコグサ 母子草。ちなみに父子草もあります。

ホトケノザ 葉が仏さんの座布団に似ていることから、仏の座とよばれます。春の七草に含まれるのは、これとは別のコオニタビラコ(小鬼田平子)という近似種だが、混同されることも多い。

ナズナ 由来は夏になると枯れること…夏無(なつな)から、撫でたいほど可愛い花の意味…撫菜(なでな)からなど、諸説ある。ぺんぺん草やシャミセングサという別名がよく知られている。「ぺんぺん」は三味線を弾く擬音語で、花の下に付いている果実の形が、三味線のばちに似る。

名前の由来を知ると、野草もまた親しみ深くなるから不思議です。学びは無限の発展性、可能性を秘めています。多忙な中にも、ふと視点を変えれば、新しい発見や気づきがあるかもしれませんね。